

基本情報						
教科・科目		中1 地理		・授業で使用するもの 授業冊子・地図帳（帝国） ・都度提出するもの レポートと自地図ワーク 補助教材：iPad：提出物の管理・調べ学習 教科書：新しい社会地理（帝国書院）		
担当者		AC：大綱貴之 B：西田幸乃				
評価割合（試験：試験外）		試験：5 試験外：5		※ 定期テスト①～⑤は、100点満点で実施 試験外評価については、授業で行うレポート、アクティビティ、プレゼンテーション等で評価する。		
年間を通じて教科で培う力		鍛錬（知識及び技能）		あらゆる地理的事象とそれに基づく人間生活の関係性を理解することができる力		
		理知（思考力・判断力・表現力等）		得た知識を使って、事象を組み合わせたり、比較したりすることで論理的に説明することができる力		
		探究・教習（主体的に学習に取り組む態度）		地理的な知識・論理を用いて人々の生活をより良くするために社会へ提言することができる力		
学習情報						
月	回	単元（学習）目標	単元目的（到達状態）	学習内容	活動内容	評価方法・ポイント
4		地理とは何か？ 地の理と人間生活との 関係性は？	○知識 あらゆる地理的な事象がそこに住む動植物や人間の生活等に影響を与えている ことを理解することができる	【地理導入】 地理とは何か？地理的な事象や変化の中で動植物が進化してきた過程 や人間が活動を行う中で地理がどう影響を与えているのかについて気づ き、今の人間生活が地の理に基づいて成り立っていることを意識する。	・講義(インプット) ・個人ワーク ・ワーク内容共有	・ レポートの提出
			○思考 具体的な地理的事象と動植物、人間の活動の相関関係について掴んだ上でそれ らを組み合わせることで論理的に地理とそこに住む生命の関係性について説明す ることができる			
5		地球の姿を概観する 六大陸と三大洋 地球は丸い？	○知識 地球の姿がどうなっているか？大陸と海の構成、地図の図法や時差の知識から 地球が球体であることを理解することができる。	【構造把握】 各大陸における産業を地形や気候に基づいて理解するために、“地球が 丸いことや地軸のズレがあることを理解することで、地球の構造から地 形や気象現象が起きていることを系統的に理論立てて説明することができ る素地を養う。	・講義(インプット) ・個人ワーク ・グループワーク	・ GWの課題 ・小テスト
			○技能 海外の位置関係や時差、図法の理解をもとに、実際の旅行や生活、科学的な技 術に対して有効に転用、活用することができる。			
6 定期試験① 令和8年 6月3日ー6月5日)						
6		目的に合わせた地図は どれ？	○知識 地球儀と世界地図の違いを理解し、代表的な図法がそれぞれ何を正確に表し、 何を犠牲にしているかを説明でき、緯度・経度の仕組みを理解し、地図を読んで 位置を特定したり、大まかな世界地図を手描きできる技能を身につける	【構造把握】 地図が「客観的な現実」ではなく「制作者の目的によって変わる表現」 であることに気づき、地理的事象を批判的・多角的にとらえようとする 態度を養う。さらに、地図という道具を通して世界への関心を高め、地 理的技能を主体的に活用しようとする意欲を養う。	・講義(インプット) ・個人ワーク ・グループワーク	・ レポート ・小テスト
			○思考 「なぜ地図によって大陸の形や大きさが違って見えるのか」という問いを出発点 に、図法の目的と用途を多面的に考察し、違いを説明することができる			
6・7		地形のリスクに対して どれだけ備えができて いるか。より安全な地 域をつくるために何が できるか。	○主体 自らの居住地域のリスクに積極的に関心をもち、探究課題に主体的に取り組む とともに、グループでの協議を通じて考えを深め、防災・減災への参画意識を表 明している。	【身近な地域調査】 小地形の成因・分布と自然災害リスクの関係を理解したうえで、身近な 地域のハザードマップや地形図を読み解き、地形的根拠にもとづいた防 災・減災の提案ができる力を育てる。	・講義(インプット) ・個人ワーク ・グループワーク	・ レポート ・プレゼンテーション
			○思考 地形データと災害リスクを関連づけて地域の防災課題を多面的に分析し、土地 利用や避難計画の改善策を地理的根拠をもとに論理的・具体的に提案できる。			
7 定期試験② 令和8年 7月15日ー7月17日 範囲)						
8		日本の各地域の特色 は、どのような条件が 重なって生まれたの か？	○「なぜこの地域はこのような特色をもつのか」という問いを自ら立て、課題を 主体的に追究しようとする態度を育てる。また、日本各地の特色や人々の営みへ の関心を深め、我が国の国土に対する理解と愛情を育む。	◆夏休み課題 「地域新聞」の作成	・個人ワーク	・新聞
9・10		ケッペンの気候区分 気候の種類と植生はど う関係しているのか？	○知識 気候の種類と植生の関係について表したケッペンの気候区分の分類と位置関係 について理解することができる	【系統地理】 地球の形状、地軸のズレ、時差などの構造上の知識を深めた上で、気 候の区分に関して理解することにより農林水産業や工業をはじめとした 人間の活動における関係性をつかむための土台としての素地を養う。	・講義(インプット) ・グループワーク	・グループプレゼン ・小テスト
			○思考 気候の種類について、地球上の構造からなぜその気候になるのか論理的に説明 できるとともに気候の特徴から植生にどう影響を与えているかについて説明す ることができる			
○学び 気候区分の原理とパターンをつかんだ上で、どのような条件下でその気候が発 生し、それらの影響によってどんな植生になるか自らの考えを示すことができる						
10 定期試験③ 令和8年 10月21日ー10月23日 範囲)						
11		北アメリカ州 重点) 気候帯と農業の 関係性について見てみ よう	○知識 既習の地形、気候と農業の関係性について理解した上で、北アメリカにおける 産業の分布や違いについて理解することができる	【地誌】 系統的に学んだ気候区分の内容をもとに東西南北で多様な気候や植生を もつアメリカ州をベースに産業の違いや特徴について追求していく。 網羅的に工業、人種等について扱うもののアメリカ州においては気候区 分をもとにした適地適作について重点的に扱う。	・講義(インプット) ・個人ワーク ・グループワーク(個人共有)	・小テスト ・個人ワークの提出物 ・グループワークの成果
			○思考 北アメリカ州の産業について地形、気候などの関係性を踏まえた上で盛んな理 由や発展した経緯について論理的に説明することができる			
○学び 北アメリカ州の産業について、現状課題となっていることやこの先の未来にお いて、地理的な状況を踏まえた上で自分なりの解決策や新提案を示すことができ る						
12		アジア州 重点) 中国への工業移 転先はどこに多いの か？	○知識 なぜ海外からの工業移転が中国において多いのか、地理的な要素をもとに理解 することができる気候や作物、地形や立地などの条件をもとにどのような条件に おいて工業が発展しやすいのか推論することができる	【地誌】 系統的に学習した気候区分をもとに農林水産業や食事の違いに ついて考察するとともに、次に続く工業立地論の前段として中国 における工業進出の地理的背景について探る。	・講義(インプット) ・グループワーク ・共有プレゼンテーション	・共有プレゼンテーション ・フィードバック
			○思考 地形、工業製品の内容などから工業が発展しやすい理論を導き、それに基づい て移転元と移転先相互にとって有効な地点と製品内容を自分なりに導くことがで きる			
12 定期試験④ 令和8年 12月9日ー12月11日 範囲)						
1		時事に目を向けて なぜ、イランとアメリカ は争っているのだから うか？	○学び 情報・通信をめぐる国際情勢を地理的・地政学的視点から批判的に読み 解こうとする姿勢を持ち、日常的に使うインターネットやスマートフォンの 背後にある国家間の競争・利害関係に関心を持ち、情報社会を主体的に 生きようとする態度を養う。	【系統地理】 現代世界における情報・通信技術の発展と地理的な広がりを理解 し、情報・通信をめぐる国家間の競争・協調・対立という地政学 的視点から、情報化が社会・経済・安全保障に与える影響を考察 する。	・講義（インプット） ・レポート作成	・冬休みの課題 ・レポート
2		ヨーロッパ州 重点) なぜヨーロッパ は統合することができ た一方で、ブレグジット が発生したのか	○技能 ヨーロッパ州の自然環境・農業・工業・文化の特色を理解し、地図や統計 資料を読み取ることができる	【系統地理】 世界の多様な言語・宗教の分布を理解し、それらが人々の生 活・文化・社会に与える影響を地理的視点から考察する。ヨー ロッパ州を具体的な事例地域として取り上げ、言語・宗教と歴史 ・政治・文化との関わりを深く探究する。 【地誌】 ヨーロッパ州の地域的特色を、自然環境・歴史的背景・EU統合 の動きと結びつけながら多面的・多角的に考察し、地学的課題と の関連においてヨーロッパのあり方を捉える。	・講義(インプット) ・ディスカッション ・レポート	・小テスト ・小レポート
			○思考 EUの意義と課題を、経済・政治・文化の視点から多面的に考察し、自分 の言葉で表現できる			
○学び ヨーロッパの地域統合の動きを、日本や世界の課題と関連させながら主 体的に探究しようとする						
3 定期試験⑤ 令和9年 3月4日ー3月6日 範囲)						